

緑丘戦没者慰霊祭式次第

開式の辞	緑丘会札幌支部副支部長	歌原邦芳
黙 禱		
学長挨拶	小樽商科大学長	穴 沢 眞
緑丘会挨拶	緑丘会札幌支部長	平 塚 彰
献 花	御遺族一同 緑丘会役員 学生代表 小樽商科大学役員	
校 歌 斉 唱	グリー&カンタール	
閉式の辞	緑丘会札幌支部副支部長	歌原邦芳

小樽商科大学 緑丘戦没者記念塔

港を望むキャンパスの一隅に、戦没者記念塔は白樺林に囲まれてひっそりと建っています。

昭和44年に建立されたこの記念塔には、当初、321人の氏名が墓石に刻まれていましたが、その後戦死が明らかになった学生の氏名が追加して刻まれ、現在は347人の学生・教員の御霊がここに眠っています。

毎年8月15日の終戦記念日に、この記念塔にご遺族、同窓生、大学関係者が集まり、若くして亡くなった学生、教員の霊を慰め、平和への誓いを新たにしています。



緑丘戦没者記念塔の由来

昭和44年8月15日(緑丘戦没者記念塔除幕式プログラムより)

昭和42年8月15日(終戦記念日)当時の本学教授松尾正路氏が、昭和17年、18年卒業の札幌在住の有志に対し、緑丘戦没者を慰霊するため、何か記念になるものを母校につくりたいので力を貸してほしいと呼びかけました。

同教授は、太平洋戦争末期から終戦後にかけて、学生の就職等何かと学生と接することが多かった方でしたが、終戦後、北海道放送で小樽商科大学関係戦没者の状況を放送することになり、取材協力のため当時の状況、遺族の方々の近況の調査にあたられました。その頃より、同教授の胸中に、若くして世を去った同窓生の霊を慰めるため、構内に慰霊塔を建立したいと発願するに至り、同窓会、同期会など機会を捉えて同窓生に呼びかけていました。この呼びかけに、昭和16年～19年卒の有志が応えて立ち、協議の結果緑丘会全体の事業として行うことになり、募金の実施、建立作業推進のための組織が編成されました。

以来2ヶ年間、一方では建立費用調達のための募金の推進に、又一方ではこの種の構造物を校内に建設することに対する文部省等の意向等を確認しつつ、全国の緑丘会員の意見を調査して塔の型式を決定しました。募金も目標の500万円を突破するに至って、ようやく44年4月下旬、残雪消えやらぬ緑丘敷地内東南の高台に着工するに至りました。

着工に当たっては、般若心経一卷が書き込まれた綺麗な小石が、基礎のコンクリートと共に打ち込まれました。

塔内部に緑丘戦没者321柱の銘を刻み、8月15日、除幕式を挙行することとなりました。参列した同窓生・遺族たちは、2年がかりでようやく実現した記念塔の完成を喜び合うとともに、「この痛ましい悲劇を二度と繰り返しません」と誓い合いました。

松尾正路教授…文
佐々木周一緑丘会理事長…筆

安らかに眠れ」

友よ

消ゆることなし

この丘にとどまりて

若き命

「戦の野に果つるとも



一 金鱗おどる渺々の

あけぼの称う浪の唄

エルムの花に若人の

涯なきのぞみ数々秘めて

夢うるわしの緑ヶ丘よ

一 琅かん融くる緑丘の

春曙をさまよへば

浪漫の靄に街沈み

風悠久の言葉あり

瀾染の桜花吹雪きつつ

あわただしくも逝く春の

伝統古き学舎に

展ける海のはてしなき

二 夕陽映ゆる白樺の

梢をわたる風の唄

慈愛の山のふところに

銀翼みがき駿足秘めて

唄ほがらかの緑ヶ丘よ

二 夏白樺に囁きて

ハイネの詩を口誦さむ

みめ美はしきまなざしの

又なき時のいとほしき

断崖落ちて浪くだけ

オタモイ遠く帆走れば

小樽の嶺々の夕あかね

冴ゆる北斗にうそぶきぬ

三 蒼穹はてず道つきず

はるかに仰ぐ北斗星

栄冠迎うこの腕に

飛躍の力ひととき秘めて

花咲き匂う緑ヶ丘よ

三 秋肅条の思い濃き

ポプラにかかる雲消えぬ

流転の行旅夢に似て

悩みの思惟を誰か知る

感傷啜うことなかれ

桜ヶ丘にたたずみて

泪ぼうだと憂愁の

落葉の行方誓うかな

四 健腕拓く五大洲

凱歌はあがる我母校

感激みてる若人の

血潮に清き教えを秘めて

春永遠の緑ヶ丘よ

四

氷雪海に傾きて

月寒ければ翻とかむ

晦冥行路遠けれど

われに港のおとめあり

流星墜ちて影もなし

逝く青春の足音に

生命を惜しむ若人は

永劫の坏酌まんとす

小樽商科大学学園賛歌

When I came ,when I came to Otaru
My heart was swelling high
Up there in Midorigaoka
You will find the reason why
When I came ,when I came to Otaru
My heart was swelling high

With the beautiful Otaru Shoudai
Very soon in love we fell
But with kind sensei's and the cherry-trees
And the Otaru belles as well
With the beautiful Otaru Shoudai
Very soon in love we fell

We have learnt up here so many things
Commerce and KOREPON
Philosophy and sports spirit
And many a cheerful song
We have learnt up here so many things
Commerce and KOREPON

When we leave, when we leave
we shall never forget
All the happiness and joy
Of Otaru syoka daigaku life
It's wonderful life for Boy!
When we leave, when we leave
we shall never forget
All the happiness and joy

進軍歌

(北大等との試合、競技対抗時に示威する応援歌・祝勝歌)

1. 栄光今や燦然として
抜きたる破邪の剣を照らす
進軍の譜は高く響けり
いざや進まん半千の軍
夕焼け美はし緑が丘よ
若人の血の燃えて流るる
2. 恨みぞこもる白楊の樹下
桜星の軍膝下に伏せば
陣頭の風そよかに吹きて
春宵の夢あはれはかなし
夕焼け美はし緑が丘よ
若人の血の燃えて流るる